

令和7年度 南砺市行政改革推進委員会会議録

1. 開催日時 令和7年12月9日（火） 午後3時から午後4時20分
2. 開催場所 南砺市役所 別館3階大ホール
3. 出席者 ○委員7名
大西宏治委員（委員長）、松本久介委員（副委員長）、南田実委員、
松林富子委員、橋爪央樹委員、島田優平委員、八幡磨未子委員
○行革推進本部12名
田中市長（本部長）、齊藤副市長（副本部長）、松本教育長、
石崎総務部長、山田総合政策部長、溝口市民協働部長、
稲垣ふるさと整備部長、氏家教育部長、笠井議会事務局長、
吉田ブランド戦略部次長、松岩地域包括医療・ケア部次長、
総務部次長
○事務局 3
上坂行革推進係長、菊田主任、得能主任
4. 欠席者 5名
須河弘美委員、山田智恵子委員、長田政哉委員、坂本希和子委員
米倉真理委員
5. 傍聴者 0名
6. 議題
協議・報告事項
 - 1) 第2次南砺市公共施設再編計画（中期）の進捗状況について
 - 2) 第3次南砺市行政改革実施計画（R2～R6）の令和6年度実績に対する内部評価について
 - 3) 南砺市第三セクター改革プランによる第三セクター経営状況報告及び改革実施計画進捗状況に係る点検・評価（令和6年度）について

【総務部次長】

定刻になりましたので、南砺市行政改革推進委員会を開催いたします。本日、司会進行を務めます総務部の片田と申します。よろしく願いいたします。

まずは委員長からご挨拶をいただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【委員長】

ありがとうございます。本委員会の狙いは、南砺市の現状を把握し、2045年や2055年などの将来を見据え、市の行政運営や財政を人口にフィットさせるよう構想することにあります。非常に難しい課題ですが、自分ごととして、また現在の暮らしとのバランスを考えながら忌憚のないご意見を願います。

【総務部次長】

ありがとうございます。続きまして、南砺市行政改革推進本部長であります田中市長よりご挨拶を申し上げます。

【市長】

ありがとうございます。最近「賢い縮小」「しなやかな縮小」といった言葉も聞かれるようになりました。人口減少に伴う行政改革は以前から進めていますが、市町村と県が一体となるような議論も出てきています。

公共施設の再編について、合併から21年が経過し、施設の老朽化が著しい状況です。メンテナンスの予算が膨らんでいるため、計画を早めることも含めて議論しなければならない時期に来ています。

将来に財政負担を残さない地域づくりをしていくことが我々の責任であり、人口減少で縮小していく中で、どう幸せな形で将来に繋げるかイメージして取り組みたいと考えています。

【総務部次長】

(資料の確認)

それでは、協議事項及び報告事項に入ります。この後の議事は規定により、委員長に議長として進行いただくことになっておりますので、委員長、よろしくお願いいたします。

【委員長】

それでは議事次第に従いまして、議事を進めさせていただきます。それでは協議事項及び報告事項に入ります。資料1、第2次南砺市公共施設再編計画中期の進捗状況について、事務局から説明をお願いします。説明の後に質疑の時間をとりますので、説明を聞いていただければと思います。それでは事務局から、説明をお願いします。

(事務局資料説明)

【委員長】

それでは、質疑応答に入ります。

(質疑応答無し)

【委員長】

資料2、第3次南砺市行政改革実施計画(R2~R6)の令和6年度実績に対する内部評価について、事務局から説明をお願いします。説明の後に質疑の時間をとりますので、説明を聞いていただければと思います。それでは事務局から、説明をお願いします。

(事務局資料説明)

【行革推進係長】

欠席された委員から事前に質問をいただいているので、この場にて紹介させていただき、回答を述べさせていただきます。

質問1 公共施設受益者負担の適正化について

: 全く動いていないように見えるのにB評価なのは適切ですか？

回答1 : スポーツ施設管理共同体との協議に日数を要しましたが、令和6年度にクラブ会員の利用料負担について概ね合意を得たため「取り組みをした」としてB評価としました。

質問2 定員適正化（人員削減）について

：人材確保の方が重要になっており、適正化を行革目標とする必要がありますか？

回答2：人材獲得競争の重要性は認識しています。定員適正化については第4次計画（R8～）からは個別計画で管理することになります。

【委員長】

資料3、南砺市第三セクター改革プランによる第三セクター経営状況報告及び改革実施計画進捗状況に係る点検・評価（令和6年度）について、事務局から説明をお願いします。説明の後に質疑の時間をとりますので、説明を聞いていただければと思います。それでは事務局から、説明をお願いします。

（事務局資料説明）

【行革推進係長】

欠席された委員から事前に質問をいただいているので、この場にて紹介させていただき、回答を述べさせていただきます。

質問1：大いに改善を要する法人について、スクラップか直営か、大きな判断が必要ではないでしょうか。利用者数が多少伸びた程度で判断を先送りしてはなりません。

回答1：「公益財団法人世界遺産相倉合掌造り集落保存財団」と「医王アローザ株式会社」は改善の余地があると見ています。「株式会社ジェイウイング」「株式会社井波木彫りの里」は自力改善の見込みを慎重に見極める段階にあり、安易な市直営化は考えていません。

【副委員長】

ジェイウイングが運営する「桜ヶ池クアガーデン」は場所も建物も良いものの、キャパシティが少なすぎて大型バスの観光客を受け入れられないのが問題です。今後は「プレイヤーパーク」開業など周辺環境の変化に期待しつつ、市も指導してほしいと思います。

【ブランド戦略部次長】

客室単価の上限引き上げや温浴部分の改善を図っていますが道半ばです。運営体制も含めて検討中です。

【A委員】

イオックス・アローザスキー場は、土日は混雑しすぎて地元客が他へ流れている現状があります。平日の入り込みを増やすための市の考えはどうでしょうか。

【市長】

宿泊施設の不足が課題だと考えています。まずは小中学校の誘客を図るとともに、周遊性を高めるとともに、今後はプレイヤーパークやゴールドウイン関連施設の連携強化により、広域的な集客を図りたいと考えています。

【B委員】

平地よりも山側の五箇山地域の施設の方が元気がある印象で、インバウンドを含めポテンシャルが高いと感じます。「井波木彫りの里」はたくさん人が来ても稼ぎにくい構造であり、コロナ禍明けの今こそ見極めが必要だと思います。

【ブランド戦略部次長】

クラウドファンディングや様々な取り組みを実施されていますが、経営の結果として積み上がっていない状況です。市はこれ以上の財政支援は行わない方針を決めており、状況が変わらなければある程度の判断が必要になります。

【副委員長】

旧町（城端、井波、福野）の旧庁舎の老朽化が著しく、お化け屋敷のようです。これらを解体し、コンパクトな市民センターを早く建設すべきです。また、図書館などを一本化し、高校生なども利用できる魅力的な施設を作り、既存の無駄な施設を廃止する政策をセットで進めてほしいです。

【C委員】

経営改善にはハード面だけでなく、社員教育やマインド等のソフト面の改善が必要です。山間部の宿泊施設には不便さも求めて訪れるものですが、平地の宿泊施設にはフルサービスが求められます。インバウンド対応などが十分にできていないのではないかと、ということを見聞させていただきます。

【D委員】

資料1に記載してある「貸付」の条件について教えてください。

【行革推進係長】

市が国県等から補助金を受けて整備した施設は（有償の場合補助金返還となるため）「無償貸付」としています。再編推進施策に基づく施設は建物質料を免除し、土地代と保険料のみの「減額貸付」としており、どちらも原則公募で行います。

【E委員】

「一般財団法人五箇山合掌の里」解散後の後始末はどうなっていますか。また、「五箇山和紙の里」のマウンテンスクールの餅つき体験がインバウンドに人気ですが、施設の活用はどうでしょうか。

【ブランド戦略部次長】

財団は解散し清算手続き中です。施設は「株式会社五箇山合掌の里」が指定管理者として運営を継続しています。「五箇山和紙の里」のマウンテンスクールは、来年度から公募により無償貸付で民間活用する予定です。

【副委員長】

「井波木彫りの里」の入浴施設はなぜ無くなったのでしょうか。また、「桜ヶ池クアガーデン」について、経営する会社が東京の会社が変わったのでしょうか。老人会での割引等の地元のニーズが通らず使いづらいとの声があります。

【ブランド戦略部次長】

井波木彫りの里の風呂はボイラー更新費用が過大であり、収益に見合わないため断念しました。桜ヶ池クアガーデンの役員には東京の方がおられますが、市内の企業です。

【A委員】

第4次南砺市行政改革実施計画にある「ICT活用」について質問です。現在、防災、教育、保育園などアプリが乱立しており情報が追いつくため、例えば市公式LINEに情報を集約するなどの対応をしてほしいです。

【総合政策部長】

同様の意見は多く寄せられています。いろいろな情報をLINEに連携するよう取り組んでいますが、教育、保育等の機密情報を含むものは専用ソフトを使わざるを得ない点をご理解ください。集約の努力は続けます。

【委員長】

他いかがでしょうか？よろしいでしょうか。それでは、議論はここまでとさせていただきます。多岐にわたる意見をありがとうございました。

それでは議事進行を事務局にお返しします。

【総務部次長】

ありがとうございます。それでは閉会にあたりまして、田中市長よりご挨拶を申し上げます。

【市長】

本日委員の皆さんには長時間にわたりいろいろとご意見をいただきまして、誠にありがとうございます。本日皆さん方からいただいた意見をもとに、またさらに行政改革を進めてまいりたいと思います。私から2点申し上げたいと思います。

まず、第三セクターの課題について、30年前の国策で補助金を使い豪華な建物を作ったものの、人材育成や維持コストが軽視され、現在維持管理が困難になっています。これまで合併直後であったこともあり、市が貸付で運転資金を回してきましたが、将来的な財政負担を軽減し、今後どうするか早めに決断する必要がある時期に来ています。

もう一つが、ターゲットと戦略についてです。南砺市においても山間部と平野部でターゲットや単価設定を使い分ける必要があります。利賀地域では高価格帯に設定した民宿が成功していますし、以前オーストラリアから中学生が訪れた際には井波彫刻や五箇山和紙の製作体験に感動した姿を目にしました。また、南砺市の宿泊施設不足は大きな課題であると認識しており、プレイヤースパーク等のレジャー施設誘致に合わせて、ビジネスホテル等の誘致も検討しています。これからも委員の皆さま、地域の方々のご意見もいろいろといただきな

がら政策を進めて参りたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。本日はどうもありがとうございました。

【総務部次長】

以上で南砺市行政改革推進委員会を閉会といたします。